

私の価値観、私の人生

(原文は英語)

エニオラ・オルワトミシン・デボラ (15 歳)

ナイジェリア・オスン州

デスティニー国際大学

私は12歳の時に、価値観を持つことの本当の意味を理解しました。私は私よりも年上の子どもが2人いる伯母と一緒に暮らしていました。いつも私がやっていないことで叱られていましたが、置かれている状況のせいで、いつも泣くのを我慢していました。恐ろしい交通事故で亡くなった両親のことを考えると、いつも胸が張り裂けそうになりました。彼らはとても良い両親で、どう振る舞うべきか、どう振る舞ってはいけないかを教えてくださいました。

あの最悪の日、両親が友人の結婚式に出席するためにラゴスに向かう途中で亡くなったという知らせは、大きな衝撃でした。親戚の中で唯一心配してくれた伯母が私を迎えに来てくれました。伯母は実の母にはなり得ないということは分かっていたのですが、どんな状況にも立ち向かっていこうと私は決心しました。

両親が亡くなる前はいつも優しくした伯母が、突然恐ろしい人になりました。私を学校に通わせるのはお金の無駄だから家にいるようにと言われた時はショックでした。不満でしたが、伯母の命令に全て従うしかありませんでした。私は全ての家事をやりました。みんなの服を洗濯し、家族の食事もしました。

それは、ある晴れた月曜日でした。家にいたのは私一人でした。座っていろいろとやるべきことを考えていると、突然、外でおじいさんと小さな子どもが道を渡ろうと待っているのが目に入りました。私には車が近づいてきているのが見えたのですが、どうやらおじいさんはあまり目が良くないらしく、車に気づいていないようでした。私は全速力で外に走り出て、車に引かれる直前のところでおじいさんを引き戻しました。

私は人の命を救うことができたことがとてもうれしく、母が私にほほ笑みかけてくれているのが目に浮かびました。私は空を見上げてほほ笑み、走って家に戻りました。その同じ日、私は仕事から帰った伯母からテーブルの上に置いてあったお金を盗んだと非難されました。その日、それよりも前にテーブルの上にお金が置いてあったのを見たのは確かでした。伯母の子どもの1人がそれを自分の学費だと言って持って行ったことも覚えていましたが、私はその時彼をそれ以上問いただすことはしませんでした。伯母は私に、その日のうちにお金を返すように言い、それができなければ家から追い出すと言いました。私は誰がお金を持って行ったのか伝えましたが、伯母は信じてくれませんでした。

次の日、伯母にすぐに家を出ていくよう言われました。家にいさせてほしいと頼みましたが、私の願いは聞き入れられませんでした。私は伯母の家を出ていくしかありませんでした。

私は行く当てもないまま家を出ました。私を家に泊めてくれる善きサマリア人を探して7時間ほど歩き回りましたが、誰も私を助けてくれそうにありませんでした。しかし、ありがたいことに、歩いていたところを1人の男の人が声をかけてくれ、家に連れて行ってくれました。なぜ当てもなく歩いていたのか聞かれたので、これまでのつらかった体験を全て話したところ、私の年でこれだけの困難に直面しながらもこのような性格でいられることに驚いていました。彼は私の話にとっても感動し、これらの教訓を彼の人生のあらゆる側面に生かすことにしました。

彼は私を大切にしてくれました。食事を与え、服を与え、町一番の学校にも通わせてくれました。私は人生の中でもう一度、父親という存在を感じることができました。そして、優しさ、正直さ、誠意は報われるということが分かりました。正しい価値観を持っていることは、黄金を持っているようなものなのです。